授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター19 年	
授業の回数 16 回	時間数（単位数） 30 時間（１単位）	配当学年・時期 １年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

・相談援助の展開過程を順序立てて理解しそのポイントを把握する

・スーパービジョンの機能を理解しスーパーバイジーとしての態度を理解する

・さまざまなアプローチ方法を知りその特徴を捉える

［授業全体の内容の概要］

・グループワークやスーパービジョンにおける専門職としての役割を理解する

・相談援助とアプローチ法の関係を理解する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・グループの理解と適切な援助方法を説明することができる

・スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係を機能を含めて説明できる

・アプローチ法を具体的に説明できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

１．グループの理解	９．スーパービジョンとコンサルテーション
２．グループの理解	10.　〃　問題チャレンジ
３．グループワークの発展問題	11. 相談援助の実際　事例①
４．さまざまな実践モデルとアプローチ問題①	12.　〃
５．さまざまな実践モデルとアプローチ問題②	13. 相談援助の実際　事例②
６．さまざまな実践モデルとアプローチ問題③	14.　〃
７．事例研究	15.　振り返り
８．相談援助における個人情報保護	16. 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ　中央法規
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（５%） ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（10%）。

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 ソーシャルワーク演習Ⅱ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 16回	時間数（単位数） 30時間（１単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

・事例を理解し、グループで互いの考え方を知り意見交換を経て相談援助者にふさわしい資質を向上させる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・事例研究から自分の考えを述べることができ、他者の考え方を理解できる。

・ソーシャルワーク実践における主要な技術を習得する。

・ソーシャルワークの過程における相談援助者の果たすべき役割を説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1. グループの理解①	10. 事例考察③　発表
2. グループの理解②	11. 個人・家族へのソーシャルワーク インテーク
3. グループの理解③	12.　〃　アセスメント
4. 自分を見つめる（自分への手紙）	13　〃　プランニング
5. ソーシャルワーカーとソーシャルワーク①	14.　〃インターベンション・モニタリング
6.　〃　②	15.　〃　ターミネーション
7.　〃　③	16. 期末考査
8. 事例考察①　発表	
9. 事例考察②　発表	

［使用テキスト・参考文献］	学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房　事例と演習で学ぶソーシャルワーク中央法規
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（５%） ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（10%）。

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 国試対策ゼミ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本　公代	実務経験		
授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 １年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・高齢者に対する支援と介護保険制度の基礎を再確認し、応用力をつける。
・相談援助の基盤と専門職・相談援助の理論と方法について復習し、さらに応用力をつける。

［授業全体の内容の概要］
・各教科の基本的事項を復習する。
・問題にチャレンジして答え合わせをしながら正しい解答を覚える。
・繰り返し問題を解いて解き方を習得する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・模擬試験に結果を出す。
・過去問題・模擬問題を確実に解くことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
2．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
3．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
4．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
5．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
6．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
7．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
8．ソーシャルワークの基盤と専門職　復習
9．ソーシャルワークの基盤と専門職　模擬問題
10. ソーシャルワークの基盤と専門職　模擬問題
11. ソーシャルワークの基盤と専門職　模擬問題
12. 模擬問題　解説
13. ソーシャルワークの理論と方法 復習
14. ソーシャルワークの理論と方法 復習
15. ソーシャルワークの理論と方法 復習
16. ソーシャルワークの理論と方法 復習
17. ソーシャルワークの理論と方法 復習
18. ソーシャルワークの基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
19. ソーシャルワークの基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
20. ソーシャルワークの基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
21. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
22. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
23. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
24. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
25 ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
26. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
27. ソーシャルワークの理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説
28. 重要事項復習
29. 重要事項復習
30. 重要事項復習
31. 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	社会福祉士国試のためのﾚﾋﾞｭｰﾌﾞｯｸ 2021 模擬試験過去問題
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・時間内の模擬テストにおいて、到達目標の７割以上に達している点を評価する（15%）。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策ゼミ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 33 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 専攻科１年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

1　担当の国家試験受験科目の内容を把握する
2　国家試験に合格するための得点力を身に付ける

［授業全体の内容の概要］

担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、過去問題を解答させ、その解説を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　過去問題が解けるようになる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．地域福祉と包括的支援体制	16. 児童・家庭福祉
2．地域福祉と包括的支援体制	17. 過去問等演習
3．過去問等演習	18. 児童・家庭福祉
4．地域福祉と包括的支援体制	19. 児童・家庭福祉
5．地域福祉と包括的支援体制	20. 過去問等演習
6．過去問等演習	21. 児童・家庭福祉
7．地域福祉と包括的支援体制	22. 貧困に対する支援
8．福祉サービスの組織と経営	23. 貧困に対する支援
9．福祉サービスの組織と経営	24. 過去問等演習
10. 過去問等演習	25. 貧困に対する支援
11. 福祉サービスの組織と経営	26. 過去問等演習
12. 福祉サービスの組織と経営	27. 貧困に対する支援
13. 過去問等演習	28. 過去問等演習
14. 福祉サービスの組織と経営	29. 貧困に対する支援
15. 児童・家庭福祉	30.　刑事司法と福祉
	31.　刑事司法と福祉
	32.　刑事司法と福祉
	33.　過去問等演習
	期末考査

［使用テキスト・参考文献］	①『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』、 発行：(株) メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-763-2 ②『クエスチョンバンク　社会福祉士国家試験問題解説』 発行：メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-764-9 ③『目で見て覚える　社会福祉士国試ナビ』 発行：中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策ゼミ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員・歯科衛生士として従事。	
授業の回数 21 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 １年・通年	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
１　担当の国家試験受験科目の内容を把握する
２　国家試験に合格するための得点力を身に付ける
［授業全体の内容の概要］
授業資料を用いて解説し、国家試験の過去問題を解き、その解説を行う。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
国家試験の過去問題を解き、理解することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

ｺﾏ数	内　容
1	保健医療と福祉①
2	医学概論①
3	高齢者福祉①
4	保健医療と福祉②
5	医学概論②
6	高齢者福祉②
7	保健医療と福祉③
8	医学概論③
9	高齢者福祉③
１０	保健医療と福祉④
１１	医学概論④
１２	高齢者福祉④
１３	保健医療と福祉⑤
１４	医学概論⑤
１５	高齢者福祉⑤
１６	保健医療と福祉⑥
１７	医学概論⑥
１８	高齢者福祉⑥
１９	保健医療と福祉⑦
２０	医学概論⑦
２１	高齢者福祉⑦

［使用テキスト・参考文献］	メディックメディア『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2026』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。 ※後期は模擬試験の結果で評価する。

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 社会福祉援助技術現場実習前指導Ⅰ・Ⅱ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20 年

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	
16 回	30 時間（１単位）	１・２年・前期	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

・多様化する援助の必要性に対し、クライエントと向き合い支援していく技術を把握する。

・現代のソーシャルワークに求められている基礎的な技術の習得をグループワークの中で体験的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

・主体的な学びを軸として適切な自己表現ができるよう、グループワークや振り返りを実施する。

・事例に沿ってソーシャルワークの過程を体験する。

・ワークシートを使用して各実習過程を考察する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・援助過程のインテークからターミネーションまで求められる技術や心構えを説明できる。

・自分の考えを大切にしながら他者の考えを理解し、活かしていく術を会得する。

・各実習過程における課題について振り返ることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

1. エゴグラムを用いた自己覚知
2. 施設・実習指導者・利用者の立場について
3. 社会福祉士を目指す理由
4. 実習の目的と課題（グループワーク）
5. 実習Ⅰの振り返りと実習についての質問
6・社会福祉士の役割とは何か？
7. 実習をスムーズに行うための６つの心得をご紹介！◎実習で高評価を得るための５つのポイントを解説！◎座学と実習での学び
10. 実習記録の書き方の６つのコツとは？書き方の観点をお伝えします！◎実習生の疑問解消！実習で困っていることって何？◎どんなことを話したらいい？実習先で利用者と会話する際のおすすめテーマ
11. 実習担当者と合わないと感じる時の対処法◎実習がきつい、辛い時はどうすればいい？途中でやめたいと思ってしまったときに取るべき行動とは？◎実習が終わったら、

のギャップを理解しよう 8. 実習プログラムの流れについて知ろう！相談援助実習の週ごとの概要について◎実習に行くなら知っておきたい、事前学習の進め方◎実習における実習計画書の進め方！ ◎実習における実習計画書の書き方のポイントは? 9. どうやって決めたらよい？社会福祉士の実習計画における目標設定。実習指導者が教える目標の立て方◎実習先の事前訪問、聞くべきことや電話のタイミングなどをお伝えします！◎毎日の目標はどう立てる？実習指導者が教える目標の立て方	御礼状を出そう！御礼状の書き方とテンプレート 12. 実習の総まとめ！実習のまとめの書き方コツ◎実習に臨むにあたり 13. 情報管理、ソーシャルワーカーの倫理 14. 実習に関するマナー 15・振り返り 16. 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	・学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房 ・実習生必携ソーシャルワーク実習ノート
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（15%）。

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策Ⅰ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本　公代	実務経験		
授業の回数 60 回	時間数（単位数） 120 時間（４単位）	配当学年・時期 ２年・通年	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・相談援助の基盤と専門職の基礎を再確認し、応用力をつける。
・相談援助の理論と方法について基礎を再確認し、応用力をつける。
・高齢者に対する支援と介護保険制度の基礎を再確認し、応用力をつける。
・相談援助の基盤と専門職・相談援助の理論と方法について復習し、さらに応用力をつける。
［授業全体の内容の概要］
・各教科の基本的事項を復習する。
・問題にチャレンジして答え合わせをしながら正しい解答を覚える。
・繰り返し問題を解いて解き方を習得する。
授業終了時の達成課題（到達目標）］
・過去問題・模擬問題を確実に解くことができる。
相談援助の基盤と専門職　７割正解（5/7）　相談援助理論と方法　８割正解（17/21）
高齢者に対する支援と介護保険制度　６割正解（6/10）

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

１．１ ソーシャルワークの形成過程　イギリス	38. 高年齢者雇用安定法・高齢社会対策基本法
２．ソーシャルワークの形成過程　アメリカ	39. 高齢者住まい法・バリアフリー法
３．ソーシャルワークのグローバル定義	40. 高齢者虐待防止法・高齢者の医療の確保に関する法律
４．ソーシャルワークの主な機能・研究者	41. 高齢社会白書・生活基礎調査　復習
５．社会福祉士及び介護福祉士法	42. 高齢者に対する支援と介護保険制度　模擬試験問題答練・解説
６．認定社会福祉士制度	43. 高齢者に対する支援と介護保険制度　過去問題・模擬問題答練・解説
７．社会福祉士の倫理綱領・行動規範	44. 高齢者に対する支援と介護保険制度　過去問題・模擬問題答練・解説
８．人と環境の交互作用　様々な実践モデルとアプローチ１	45. 高齢者に対する支援と介護保険制度　過去問題・模擬問題答練・解説
９．様々な実践モデルとアプローチ２	46. 高齢者に対する支援と介護保険制度　過去問題・模擬問題答練・解説
10. 様々な実践モデルとアプローチ３	47. 高齢者に対する支援と介護保険制度　過去問題・模擬問題答練・解説
11. 相談援助の展開過程　インテーク～アフターケア	48. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
12. ケアマネジメント　アセスメントツール	49. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
13. 効果測定　記録の文体　ICT の活用	50. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説
14. 相談援助における援助関係	
15. 面接技術　面接の留意点	
16. バイステックの７原則	
17. 社会資源の活用・調整・開発	
18. ネットワーキング　ソーシャルサポートネットワーク	

19. グループワークにおける展開過程　グループダイナミックス 20. コノプカのグループワーク　セルフヘルプ 21. スーパービジョン　コンサルテーション 22. 個人情報保護法 23. 高齢社会白書　問題作成 24. 生活基礎調査　問題作成 25. 介護保険制度１　概要　改正の変遷と地域包括ケアシステム 26. 介護保険制度２　被保険者と保険者　関係機関とその役割 27. 介護保険制度２　被保険者と保険者　関係機関とその役割 28. 介護保険制度３　サービスの種類と内容 29　介護保険制度４介護保険施設の種類とサービス 30　介護保険制度５介護予防・日常生活自立支援事業 31. 介護保険復習 32. 介護保険復習 33. 介護保険復習 34. 期末考査 35. 介護過程 36. 老人福祉法１ 37. 老人福祉法	51. 相談援助の基盤と専門職 過去問題・模擬問題答練・解説 52. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 53. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 54. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 55. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 56. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 57. 相談援助の理論と方法 過去問題・模擬問題答練・解説 58. 重要事項復習 59. 重要事項復習 60. 重要事項復習 61. 重要事項復習 62. 重要事項復習 63. 重要事項復習 64. 重要事項復習 65. 重要事項復習 66. 模擬試験

［使用テキスト・参考文献］	社会福祉士国試のためのﾚﾋﾞｭｰﾌﾞｯｸ2021 模擬試験過去問題
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・時間内の模擬テストにおいて、到達目標の７割以上に達している点を評価する（15%）。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策Ⅳ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 34 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 専攻科２年・前期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

1　担当の国家試験受験科目の内容を把握する
2　国家試験に合格するための得点力を身に付ける

［授業全体の内容の概要］

担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、過去問題を解答させ、その解説を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　過去問題が解けるようになる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．地域福祉と包括的支援体制	16. 児童・家庭福祉
2．地域福祉と包括的支援体制	17. 過去問等演習
3．過去問等演習	18. 児童・家庭福祉
4．地域福祉と包括的支援体制	19. 児童・家庭福祉
5．地域福祉と包括的支援体制	20. 過去問等演習
6．過去問等演習	21. 児童・家庭福祉
7．地域福祉と包括的支援体制	22. 貧困に対する支援
8．福祉サービスの組織と経営	23. 貧困に対する支援
9．福祉サービスの組織と経営	24. 過去問等演習
10. 過去問等演習	25. 貧困に対する支援
11. 福祉サービスの組織と経営	26. 過去問等演習
12. 福祉サービスの組織と経営	27. 貧困に対する支援
13. 過去問等演習	28. 過去問等演習
14. 福祉サービスの組織と経営	29. 貧困に対する支援
15. 児童・家庭福祉	30. 刑事司法と福祉
	31. 刑事司法と福祉
	32. 刑事司法と福祉
	33. 刑事司法と福祉
	34. 過去問等演習その後期末考査

［使用テキスト・参考文献］	①『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』、 発行：（株）メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-763-2 ②『クエスチョンバンク　社会福祉士国家試験問題解説』 発行：メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-764-9 ③『目で見て覚える　社会福祉士国試ナビ　』 発行：中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%） ・専攻科２年は模擬試験の点数により評価

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策Ⅳ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 33 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 専攻科２年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

1　担当の国家試験受験科目の内容を把握する
2　国家試験に合格するための得点力を身に付ける

［授業全体の内容の概要］

担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、過去問題を解答させ、その解説を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　過去問題が解けるようになる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．地域福祉と包括的支援体制	16. 児童・家庭福祉
2．地域福祉と包括的支援体制	17. 過去問等演習
3．過去問等演習	18. 児童・家庭福祉
4．地域福祉と包括的支援体制	19. 児童・家庭福祉
5．地域福祉と包括的支援体制	20. 過去問等演習
6．過去問等演習	21. 児童・家庭福祉
7．地域福祉と包括的支援体制	22. 貧困に対する支援
8．福祉サービスの組織と経営	23. 貧困に対する支援
9．福祉サービスの組織と経営	24. 過去問等演習
10. 過去問等演習	25. 貧困に対する支援
11. 福祉サービスの組織と経営	26. 過去問等演習
12. 福祉サービスの組織と経営	27. 貧困に対する支援
13. 過去問等演習	28. 過去問等演習
14. 福祉サービスの組織と経営	29. 貧困に対する支援
15. 児童・家庭福祉	30. 刑事司法と福祉
	31. 刑事司法と福祉
	32. 刑事司法と福祉
	33. 過去問等演習
	期末考査

［使用テキスト・参考文献］	①『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』、 発行：（株）メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-763-2 ②『クエスチョンバンク　社会福祉士国家試験問題解説』 発行：メデイック・メデイア ISBN978-4-89632-764-9 ③『目で見て覚える　社会福祉士国試ナビ　』 発行：中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%） ・専攻科２年は模擬試験の点数により評価

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 社会福祉士国家試験対策Ⅴ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員・歯科衛生士として従事。	
授業の回数 24 回	時間数（単位数） 120 時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・通年	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
１　担当の国家試験受験科目の内容を把握する
２　国家試験に合格するための得点力を身に付ける

［授業全体の内容の概要］
授業資料を用いて解説し、国家試験の過去問題を解き、その解説を行う。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
国家試験の過去問題を解き、理解することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	内　容
1	保健医療と福祉①
2	医学概論①
3	高齢者福祉①
4	保健医療と福祉②
5	医学概論②
6	高齢者福祉②
7	保健医療と福祉③
8	医学概論③
9	高齢者福祉③
１０	保健医療と福祉④
１１	医学概論④
１２	高齢者福祉④
１３	期末試験（前期）
１４	第１回模試解説
１５	保健医療と福祉⑤
１６	医学概論⑤
１７	高齢者福祉⑤
１８	医学概論⑥
１９	高齢者福祉⑥
２０	高齢者福祉⑦
２１	高齢者福祉⑧
２２	高齢者福祉⑨
２３	高齢者福祉⑩
２４	高齢者福祉⑪

［使用テキスト・参考文献］	メディックメディア『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2026』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。 ※後期は模擬試験の結果で評価する。